

4 学年の実践記録

(1) 主題に迫るための具体的な手立て

〔手立て1〕

- ・3年生の総合的な学習「大くら大すき！3年生」の単元で大蔵の自慢を想起させ、大蔵の町の特徴について話し合ったり、去年の4年生の学習の様子をDVDで見せたりして、児童が年長者との交流に興味を持てるようにする。
- ・年長者との3回の交流だけでなく、年長者を支える人とも交流の後に振り返りの会を行う単元構成の工夫を行った。

〔手立て2〕

- ・国語科との関連を図り、2回目の交流後の情報交換会では、グループごとに写真や資料を使ってまとめ、学級みんなに伝え合う場を設定する。
- ・3回目の新聞での交流では、年長者や支える人にインタビューしたり、自分が考えたりしたことをまとめていく。
- ・年長者や年長者を支える人との交流を通して自分の思いを持つ場面では、話し合いを通して、さらに年長者と関わりたいという思いを持てるようにする。

〔手立て3〕

- ・年長者や支える人からの3回の交流中や後の言葉かけを、児童の支援や評価に生かす。
- ・年長者や年長者を支える人との交流を通して自分の思いを持つ場面では、芳賀さんに話をしてもらうことで、児童が大蔵のまちに対する思いを深め、自分たちの活動に自信を持って取り組めるようにする。

(2) 研究の実際と考察

〔手立て1〕

単元の導入では、3年生の総合的な学習「大くら大すき3年生」を想起させ、「大蔵って何が多いまちでしょう？」と問いかけた。「坂・階段・お年寄り・・・」などが出てきた。今までの年長者とのふれ合いについて、書かせた。その後、夏休みのボランティア体験で年長者のお宅訪問をした、児童3人の体験談と去年の4年生が年長者との交流やボランティア体験をした様子をまとめたDVDを見せた。児童はまだ知らない大蔵の特色に驚き、これからの活動に意欲を持つことができた。

単元構成をしていく中で、児童と年長者のふれ合いのみを中核に置いたとき、活動が児童の自己満足に陥っていくのではないかということが予想された。そこで、児童と年長者と年長者を支える活動をしている人の3つを中核に置き、交流後に毎回グループごとの振り返りの会を行った。そうすることで、児童は、年長者に対する理解を深めると共に、年長者を支えている人の思いにもきづくことができた。

〔手立て2〕

2回の交流(資料1)の後、それぞれのグループが学んだことを国語科「調べたことを発表しよう」で身に付けたまとめ方や表現方法を活用し、「うまくいったこと・困っていること・支える人の思いや願い」について発表した。(資料2)

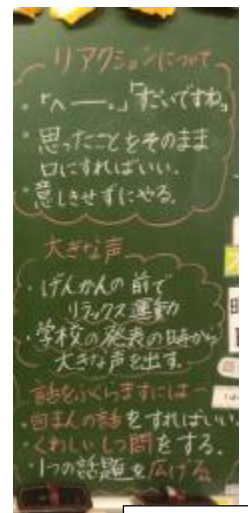
児童は、他のグループの発表を興味深く聞いていた。発表後の意見交換で、困っていることに対してアドバイスをし合うことで、同じ年長者でも同じところや違うところがあることに気づくことができた。「ぼくたちのグループでは、こうやったらうまくいきました。」という意見に「ありがとう、それできそう。」と活発に情



資料1



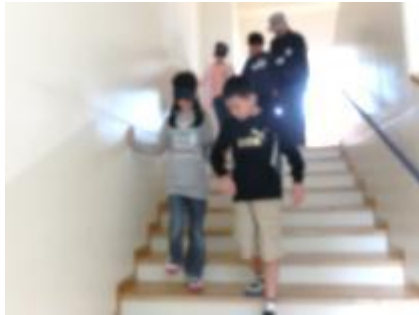
資料2



資料3

報交換が行われた。(資料3)

この情報交換会で、年長者の「心」については、考えられたが、「体」の不自由さについてもっと知りたいという意見が出た。そこで、「ボランティア体験学習」を行った。ボランティア体験学習では、「アイマスク」「車いす」「高齢者疑似体験」の3つの体験(資料4)を交代で行った。その後、体験学習を通して学んだことを話し合い、まとめた。



資料4

3回目の活動の後、今までの学習を通して学んだことを1学期に国語科の「新聞の特徴と作り方を知ろう」の学習で学んだ方法で作成し、表現方法を生かし発表した。途中で、中間発表を行い、友達のグループの新聞の良いところやアドバイスを付箋に書いて渡した。(資料5)アドバイスをもらった児童は、修正し発表の練習を行った。

新聞発表会では、ポスターセッション方式で、友達の発表から年長者や年長者を支える人の思いや願いを聞き取りながら発表を聞いた。自分が交流した年長者だけでなく他の年長者や支える人がどんな思いを持っているか興味を持って聞くことができた。(資料6)



資料5



資料6

〔手立て3〕

3回の年長者との交流の後には支える人と児童でグループごとに「ふり返りの会」(資料)を行った。児童は、支える方の言葉や年長者に対する接し方を見て、「次は、こうしたい」「自分もできるようになりたい」という意欲を持って活動することができていた。支える人からのアドバイスは、児童の励みとなり、交流が児童の自己満足に終わらずに、進んでいく助けとなった。(資料7)

K児は、最初、声が小さくて年長者に言葉をうまく伝えられず、支える人が年長者に言い直して伝えていた。しかし、3回の活動を通して、支える方に言い直してもらわなくても自分たちの言葉で、年長者に思いを伝えることができるようになった。K児はそのことを喜び、自分の成長に



資料7

自信をもつことができた。(資料8)

1回目

★ 支える人とられあって

・大島さんは、大島さんが「お話を」よく聞かされたから、
「お話を」よく聞かされたから、
でも、
・大島さんが「お話を」の意味が分からないので、
「お話を」よく聞かされたから、
「お話を」よく聞かされたから、

2回目

★ 支える人の思いや願い、アドバイスいただいたことを書きましょう。

・本郷さんが私達が「お話を」したことを
「お話を」よく聞かされたから、

3回目

支える人(本郷)さん

・コミュニケーションがとれるようになったからよかった。
・1ヶ月に1回「お話を」をしに行く。
・話しがすむようになった。
・大島さんがみんなが来た時笑顔にな。たり楽しそうだった。

3回の交流後の自分の思いをもつ場面では、年長者の思いや支える方の思いを出し合い、自分たちにできることを話し合った。児童は、年長者から、「みんながきてくれて人生が明るくなった」「みんなの元気よさをもらって長生きしたい」「命を大切にしてほしい」などの言葉をかけてもらった。支える人からは、「声かけが上手になったね。」「質問の内容がよくなった。」「みんなが来たとき、大島さん(年長者)が、笑顔になってきたね。」などの声をかけてもらった喜びを活発に話し合った。

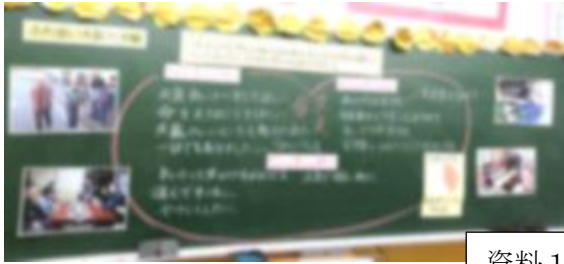
さらに、これから「もっと町で年長者に声をかけて助けたい。」「挨拶を進んでしたい。」「休みの日にまた、訪問したい。」などの意見も出た。(資料10)

自分たちの成長を感じ取ることができた。「大蔵ふれ合い大作戦」を中心となって支えてくれた芳賀さんに話をしていただいた。

(芳賀さんの話)

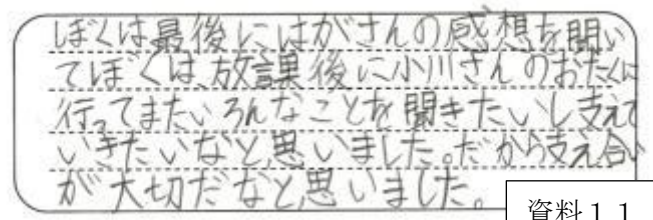
資料9

最初は、4年生の皆さんが年長者のお宅を訪問するのは、無理じゃないかともっていました。1回目は、とっても緊張していましたね。でも、2回目、3回目となると、どんどん上手にお話できていました。みなさんが、しっかり準備をしていたのが、成功の秘訣だったと思います。皆さんは、もう年長者を支える一員です。(中略)年長者も支える人も皆さんもみんなでお互いに支え合いながら大蔵のまちをつくっていきましょう。



資料 1 0

☆ 今日の学習をふりかえって感想を書きましょう。



資料 1 1

児童は、芳賀さんから支える人の一員と言ってもらえたことで、自分たちの活動に自信を持つことができた。さらに「自分たちで交流を計画したい。」「3 学期は、年長者の方を学校に招待したい。」など、次の活動への意欲を高めていった。(資料 1 1)

(3) 成果と課題

[成果]

- 国語科との関連を図り、調べたことをまとめる活動を位置づけたことで、児童はまとめ方が分かり、自分たちが調べたことや自分の思いを資料や原稿、新聞を使って短時間で効果的にまとめることができた。アンケートの結果からも 94% の児童が教科等の学習が総合的な学習に役立つと答え、教科関連のよさを感じることができた。
- 本単元で、大きく 3 つの伝え合いの場の設定を行った。1 つ目は 3 回の交流の感想を伝え合う学級での交流、2 つ目は 2 回の交流後の年長者とのふれ合いでの成長や困っていることを出し合う情報交換会、3 つ目は 3 回目の交流の後に年長者や支える人の思いをまとめた新聞発表である。また、新聞発表後の話し合いには、「ふれ合い大蔵大作戦」を支えて下さった芳賀さんにも賞賛していただいた。これらの繰り返しの伝え合う活動を通して、児童は年長者や年長者が多く住む大蔵のまちに対する思いを深めていくことができた。

S 児の作文

わたしがこの学習をして一番心に残ったことは、年長者の笑顔になる回数が一回目より二回目、二回目より三回目とどんどん増えていったことです。しかも、前は笑顔を見て何も思わなかったけど、今はとってもうれしい気持ちになります。

わたしは、町で年長者と話したことは、なかったです。この学習で年長者の家に行った後、町で年長者に声をかけようとしても勇気が出ませんでした。友達に「こんにちは」と最初に言えればいいよとアドバイスをもらい試してみると成功しました。

(中略)

年長者の方は明るくてとってもやさしい方でした。それも井崎さんだけでなく他の方もそうでした。私の周りには、年長者を支える人がいっぱいいることがわかりました。わたしも、もっともつと声かけをして、大蔵の年長者を支えていきたいです。

- 年長者の方とのふれ合いを学習の核に置いた取り組みでは、放課後にお宅を訪問したり、学習発表会に招待状を出したり、年賀状を書いたり児童の方から年長者との交流を意欲的に進めていく発言や姿がみられた。年長者との交流は、児童にとって価値ある活動だったといえる。

[課題]

- 年長者との交流の様子を保護者や地域の方にもっと知らせ、その声を児童に返していくことで、学習にさらに広がりがあると思う。新聞発表にもう一工夫して、発信をしていく必要がある。
- 児童自信が自分の成長を感じることができるよう自己評価や友達からの他者評価を組み合わせる工夫が必要である。
- 総合的な学習に児童の学習を生かしていくために、各教科との関連について見直しさらに関連性を深めていく必要性を感じた。